

チェコ・ビルゼンで日本を待っていたのは厳しい結果だった。
果敢に挑む若者たちにとって、世界の壁はまだ厚い。

2004 オリエンテーリング世界大学選手権大会
2004年6月22日-26日
チェコ・ビルゼン

ユニバーに挑戦

6月22日から26日にチェコのビルゼンで世界大学オリエンテーリング選手権大会（通称：ユニバーシーアード）が開催された。今回からユニバの種目にスプリントが追加され、その代わりにミドル予選がなくなった。個人戦は全て決勝のみで、ロング、スプリント、ミドル、リレーと4日間連続で決勝レースを走るタフな日程となった。前回のユニバではミドル予選で3人通過果たした日本チームだが、今回は個人戦20位、リレー入賞という高い目標をかかげて大会に臨んだ。

地元チェコが大活躍！

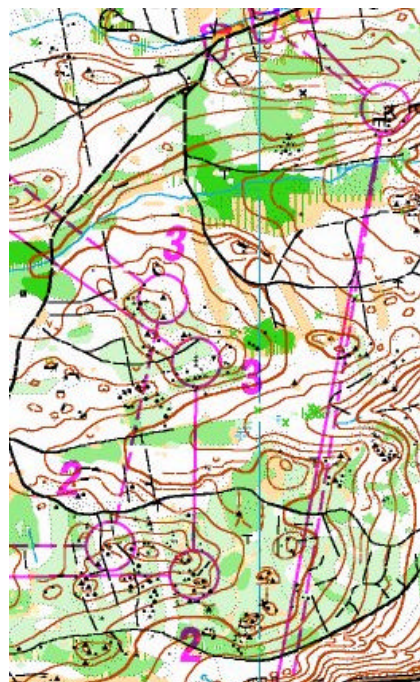
大会を通じて地元チェコが大活躍。もともとオリエンテーリングの強国チェコだが、今回も男女8種目中5種目で優勝。男女リレーアベック優勝や女

子スプリント1～3位独占などその強さは圧倒的で、イベントを大いに盛り上げた。

他国のオフィシャルから、「チェコは今回良い選手をそろえている」と聞いていたが、実際に学生代表選手の多くがその後チェコ代表として DENMARK での Wcup にも出場していた。反面、過去のように Simone(SUI)、Emil(SWE)、Thierry(FRA)といった世界トップ選手の出場がなかったのが残念。

やはりタフだったロング

初日のロングは多くが藪の中の岩にコントロールが置かれるタフなコース。ウイニングは男子でキロ6分、女子でキロ7分を切っているが、日本選手にとってはかなり走りづらく感じられた。一番期待された番場もトップと28分差と前回よりも厳しい結果に。西尾や寺垣内はレース中にエネルギー切れをしてしまったようだ。偶然だが、新宅と西尾は130分を越えるレースでわずか1秒差。男子では坂本、女子では皆川が相対的に良いレース。「去年の JWOC の経験が生かされた（坂本）」特に岩場での走りや難しいコントロールに対する集中力の持続が課題となった。



ロング地図。前半からヤブの中にコントロールが置かれている

ロング女子 (68人) 8.90 km

1 BRO?KOVA Dana (CZE)	62.19
50 番場洋子	90.45
54 皆川美紀子	97.06
57 原響子	106.24
60 浅井千穂	128.38

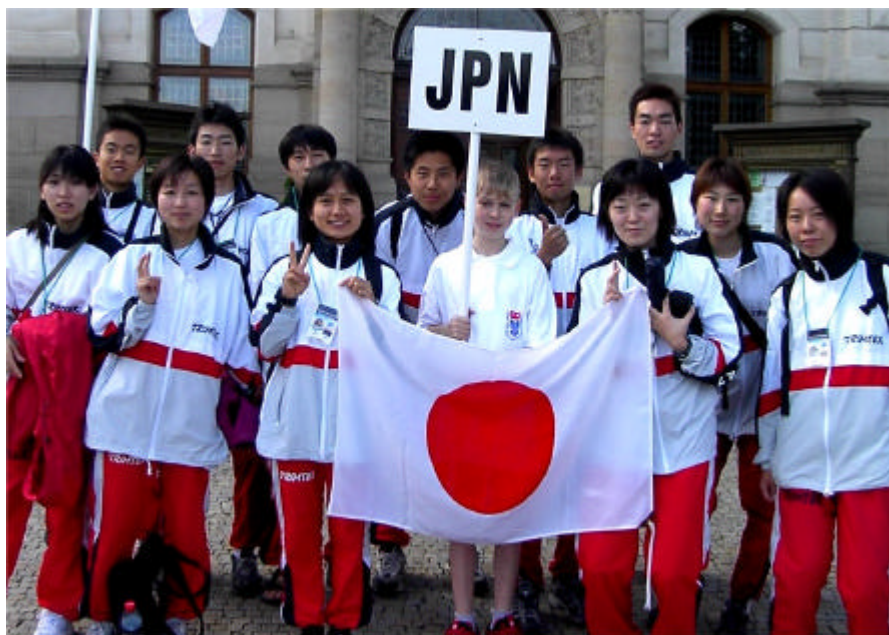
ロング男子 (90人) 14.40 km

1 SMOLA Michal (CZE)	82.58
60 坂本貴史	116.24
69 寺垣内航	133.31
70 新宅有太	134.40
71 西尾信寛	134.41

無念！小泉の怪我

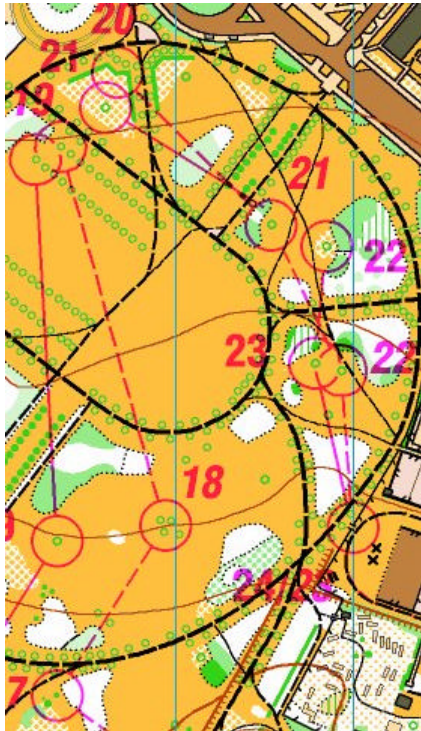
スプリント競技で、男子エースの小泉は1番をジャンピングしながらのパンチで2位、10番までもトップと45秒差と順調な滑り出しだったが、10番でコントロールをチェックする際に足の甲を激しく捻挫。その後ゴールはしたものの、ゴール後は歩けなくなり、残念ながらその後のミドル、リレーは欠場することになってしまった。「自分のユニバは9分で終わってしまったが、後悔はない（小泉）」

スプリントでは男女で同じ位置説明に超隣接（10-15m程度）してコントロールが設置され、失格が続出。実に男子の25%、女子の20%が失格になり、



ユニバー2004 日本選手団。高い目標をかかげて開会式に臨む。

日本でも姫野と高野が失格。多くのコーチが「明らかにルール違反。こんな隣接して同じ特徴物にコントロールを置くような指導を選手にはしていない」と憤慨していた。確かにコントロール記号を確認するのは選手の義務だが、単なる記号確認の競技ではあってはならない。



スプリントの地図。

多くの選手が間違えた最終前コントロール

「思ったよりもスピードに差がないと感じた(姫野)」のが収穫。スプリントはトレインのハンディキャップがなく、日本でもほぼ同じ条件でトレーニングが積める種目でもある。

スプリント女子 (60人) 2.90 km

1	TRBOVA Marta	15.58
34	皆川美紀子	20.31
	高野麻記子	DISQ
	姫野祐子	DISQ

スプリント男子 (79人) 3.25 km

1	OSTERBO Oystein	14.42
49	佐々木良宜	18.29
53	小泉成行	18.58
54	坂本貴史	19.50

超微地形のミドル

ミドルは昔に人工的に掘った場所が使われていて、チェコにしては珍しい微地形のエリアが中心のトレイン。まずスタート地点がプレスタートから30m上のオープンの尾根に設置されていて、そのレイアウトにびっくり。

マップを見ると微地形地帯だけに多

くの選手がミスをしているが、日本選手もミスが多いレースになってしまった。その中で西尾がトップと10分差でタイム比127%とロングの借りをかえず好結果。また、佐々木が1レグでベストラップをたたき出した。

「集団で走っていて、うまく自分だけが先にチェックできた。しかし脱出で慌ててしまいミスしてしまったのが痛恨(佐々木)」



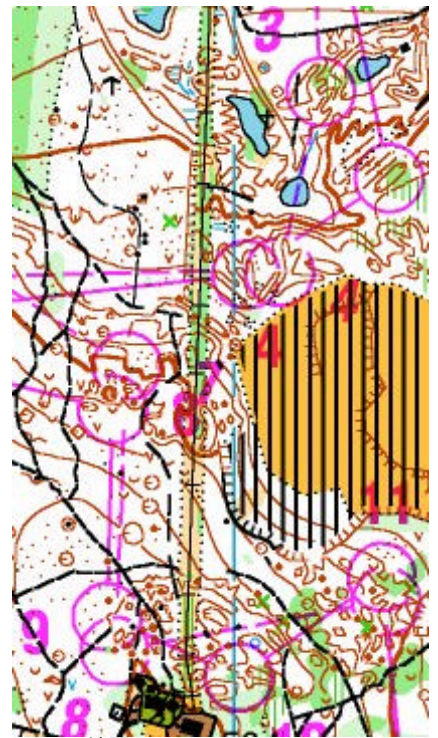
ミドルのスタートはオープンの中
写真は浅井千穂

ミドル女子 (77人) 5.70 km

1	B. Camilla (SWE)	41.18
54	番場洋子	58.36
59	姫野祐子	65.54
61	高野麻記子	67.52
65	浅井千穂	81.55

ミドル男子 (102人) 6.70 km

1	DAVIDIK Marian (SVK)	37.27
59	西尾信寛	47.31
77	寺垣内航	54.49
78	新宅有太	55.10
80	佐々木良宜	57.36



ミドルの地図。
読みきれないほどの微地形

寺垣内、ラスポで逆転(リレー)

今回、チームとして最大の目標とされていたリレー。男子は欠場した小泉に代わりに坂本が入り、坂本 西尾 佐々木 寺垣内のオーダー。女子は当初の予定通り番場 皆川 姫野 原。

世界選手権は3人制だが、ユニバはまだ4人制のまま。結果は男子が22か国中18位、女子は14か国中最下位。

リレーはまさしくチェコといった高速のレースで男子トップはキロ5分、女子でも6分前半で走りきる。ここ最近のユニバもそうだったが、日本選手は個人戦に較べてリレーでの結果が悪く、競い合いでのオリエンテーリングの経験がまだまだ不足している。1走の坂本、番場とも途中までは集団で走れているが、途中ミスで出遅れてしまった。



リレー1走スタート。坂本の姿も見える。

最大の見せ場は男子の4走。アンカー寺垣内は先行するイスラエルを徐々に追い上げ、ゴール7分前のパブリックでは1分差。逆転の期待を込めて皆がラスポで待っていると、予想外の方向から寺垣内とイスラエルの選手が同時に出現。テープ誘導の勝負を気合の走りで制して順位を一つ上げてゴール。この競り合いには多くの国が歓声を上げていた。「実は最後2人でつぼっていた。(寺垣内)」



イスラエルとのデットヒートを制する！
リレー4走ゴール(寺垣内)

その後女子も原がゴールし、女子では3大会振りとなる完走。トップ比145%は過去最高で、2走皆川が番場を上回るタイムで走り、その時点では5分差以内に3カ国がいるなど、収穫もあった。「リレーでは自分のレースができた(原)」



リレーで快走を見せた皆川美紀子

女子リレー(14カ国)○は通過順位

1	CZE	151.03
14	日本	219.58
	番場洋子	52.09(14)
	皆川美紀子	49.38(14)
	姫野祐子	62.26(14)
	原響子	55.45(14)

男子リレー(22カ国)

1	CZE	153.46
18	日本	208.35
	坂本貴史	50.48(18)
	西尾信寛	57.14(19)

佐々木良宜 49.07(19)
寺垣内航 51.26(18)



日本男子チーム

超美味のビール

ピルゼンといえばビール好きには「ピルスナービール」の発祥の地として有名な場所。パンケッツは、日本にも輸入されているピルスナー・ウルケルのビール工場の中にある有名なビアホール！おいしい生ビールを皆で堪能(1杯100円ぐらい)。日本女子は全員浴衣姿で大人気。恒例のディスコではいつもより長時間踊り続け、その点ではレベルアップ！

「このままずっとチェコに住んでいたい!(番場)」

次回は隣国スロバキア

前回からさらなるステップアップを望んだユニバだったが実際は厳しい結果に終わった。これまでにない早い時

期での開催であったが、短い準備期間でも毎週のように合宿を行い、チームとしてのまとまりは最高ともいえるものだっただけに残念である。

ユニバやJWOCでは日本選手は他国の同世代に較べてまだまだ経験不足である。コーチとして反省すべき点はもちろん反省するが、選手にはユニバをステップにして更に経験を積んで欲しいと思う。これまでユニバチームを支援してくれた皆さんには心から感謝したい。

最後に2004年が最後かも?なんて噂されていたユニバだが、2006年ももちろんちゃんといわれる。次回はお隣のスロバキア。トレインはドリーネ地形でこれまた面白そうである。種目は今回と全く同じで、8月14日から20日と通常の日程での開催になる。多くの学生選手が次回ユニバを目標としてくれることを期待して今回の報告を終える。

(加賀屋博文)



優勝したチェコと記念撮影。逆の立場になれる日はいつ?